

たかはし ゆき  
 名前：高橋 侑希  
 生年月日：昭和58年11月17日  
 出身：11の町



今年の7月に10年足らずお世話になった介護業界を離れ、ドリーマーへ葬祭業に携わる仕事は、人生で初めてありますが、1人でも多くの方に「高橋さんに任せてよかった」と言ってもらえるように、日々頑張りたいと思います。宜しくお願いします。



サッカーをされていた方をイメージした花祭壇



たくさんの方にご来場頂き、誠にありがとうございました



思い出に残って頂けるコーナー(受用品の展示等)

3月4日にドリーマー感謝祭を開催致しました！  
 普段は静かな会館ですが多くの人に来て頂き、会館を見学してもらうことができました。  
 次回は、神田葬祭館で7月に開催を予定しております。  
 興味のある方は、是非お越しください！！



お客様の声 《2月御葬儀の御当家様》

① 担当者の対応や接客態度等はいかがでしたか？

今回は大変お世話になりました。担当のミサキさんには、細やかにアドバイスをいただき、とても満足しています。特に孫からのプレゼント(お墓)に奮闘いただいたおかげで、とても良いお墓になりました。そしてお葬儀の準備にもお任せいただき、湯かんにとても感謝しています。

② その他のスタッフの対応や接客態度等はいかがでしたか？満足しています。すばらしいので、本当に良かったです。

【司会者】ありがとうございます。

担当として本当に感謝しています。

事前の打ち合わせからしっかりと接していただき、

そして、通夜・告別式の司会がすばらしい。満足しています。

【通夜・告別式の女性スタッフ】

とても優しく接してくれました。ありがとうございます。

【納棺・湯かんのスタッフ】

母の体を洗っていただいたり、髪を洗っていただいたり、お化粧も手帳にしてくださいました。本当に湯かんに感謝しています。お葬儀の準備にもお任せいただき、とても良かったです。本当にありがとうございます。

担当者からの御礼

いつも「御当家に寄り添う」ということを心掛けていますので、ご満足頂ける事が、私にとって一番の励みになります。私の方こそ、担当させて頂きありがとうございました。今後もお手伝いできる事がありましたら、いつでもご連絡下さい。



この他の「お客様の声」は、HP上でご紹介させて頂いております。興味のある方は、

ドリーマー お客様の声



でご検索下さい

『終活』って何のことをいっているの??

最近、「終活」…という言葉に耳にする方も増えてきたのではないかと思います。大まかに言うと、人生の最期(終末期)をどうするか、どう過ごすかを考える活動のことを意味します。

ある週刊誌が就職活動の「就活」に当てて作った造語「終活」を使って、それについての記事を掲載し始めたのがきっかけで世の中に広く知れ渡るようになってきました。人生の最期(終末期)と言うことですので、葬儀やお墓、仏壇についてのことが想像されますが、今は広く医療や介護、看護、家の片づけや遺言、相続まで多岐に項目が分かれております。

さてその「終活」ですが、今でこそ雑誌・TV・セミナーなどで広く耳にするようになりましたが、実は今に始まったことではなく、昔から皆さんがずっとやってきたことなのです。昔は、家族が多く、二世帯、三世帯の家族がひとつ屋根の下に暮らすことが普通でした。その生活の中でおじいさんやおばあさんなどの上の世代から、自分の家の歴史や希望などの様々なことが伝えられてきました。おじいさんやおばあさんは県外の出身ですよ、病気の時はあそこのお医者さんをお呼びください、お葬儀の時のお寺さんはひと山越えたあのお寺、うちのお墓はそこにあるよ、家は長男が継ぎなさい…など、普段の何気ない生活の中で自然とこのように会話がされていました。

それが今はどうでしょうか。今は家族内の人数も減り、親と子は別世帯で生活している、親子が最後に顔を合わせたのはいつか分からない、おばあさんは独り暮らし…などが普通になってきました。普段から会話がなくなってきてせいで、家族間のコミュニケーションが少なくなり、お互いが一体何を考えているのか分からないような家族が増えてきました。

例えば、サザエさんの磯野家ははどうでしょうか。おそらく磯野家は今後カツオが後を継ぐでしょうが、波平やフネは自分に介護が必要になった時に、カツオの将来の奥さん(長男の妻)とサザエ、ワカメ(実の娘)のどちらに面倒を見て欲しいのでしょうか？ちびまる子ちゃんのさくら家は、さきことまるこのふたり姉妹ですが、両方ともお嫁に行った後は、さくら家のお墓や仏壇は誰がみていくことになるのでしょうか…？このような問題は昔からあった訳ですが、今は昔ほど普段から家族間で話をしてない訳ですから問題を先送りにして、後々大変な思いをしている家族が多くなっていく。久し振りに顔を合わせた時に子どもから遺産や相続の話がでると、親の方もいきなりなんだ？となる訳です。元気なうちから自分の葬儀はどのような葬儀がいいかと前もっておじいさんに聞いておけば、少しでも希望に沿えることができます。入院末期の余命1カ月もないおじいさんにとっても葬儀の希望など聞くことはできないでしょう。ですから、まずは、家族みんなで少しずつ構いませんので話をすることから始めてみませんか？ということなのです。

今後ドリーマーはこのかわら版を通じて、以下に挙げました「終活」に関する項目についてどのように考えていけばよいかを掲載していきます。私達の知識や葬儀現場からの話、御当家から質問があってそれについてお答えしたような話も一緒に交えていこうと思っておりますのでご期待下さいませ。

1. 自分史
2. 介護・看護
3. 延命治療・脳死・病名告知
4. 終末期医療・尊厳死
5. 臓器提供・献体
6. 遺言・相続
7. 資産関係
8. 葬儀
9. 仏壇・仏具・お墓
10. 永代供養
11. 自分の持ち物の処分・整理
12. 亡くなった後の諸手続き
13. ペット

